

混和会とは、共に許し合いながら、他の人格を尊重し、共に生きる和の構築を目指す集いです。

# ほとけの混和会だより

令和元年九月

東光院

仏の混和会

第142号

## 【涅槃寂靜】



7月10日  
早朝の尾瀬ヶ原  
雄大な静寂な境地  
感動の一時でした

秋とは名ばかり残暑厳しい今日この頃ですが、檀信徒の皆様にお越しのことと拝察申し上げます。又お盆の諸行事やお参りに際しましては、皆様の心温まる優しさを賜りましたこと誠にありがとうございます。御礼申し上げます。御仏の優しさである慈愛心を共に感じ感謝し居る環境に住まわさずともありがたいこと存じます。昨今、各国の様々なや紛争や報復合戦等、何とも嘆か

しく一日も早い解決をお祈り申し上げます。さて秋尊はこの世は無常で実態は無いから物事に捕らわれてはいけませんよ執着しても成りませぬよ大自然の営みに身を委ね、心静かにあるがままに生きなさい。「涅槃寂靜」と説いて下さいませ。しかし私は仏陀のように聖人として生きる事はとても叶わないので、最近共に迷い共に苦しみなながら、小さな感動を沢山共有したいと望むように成って参りました。そこでささやかな感動を求め七月九日十日と尾瀬ヶ原を歩いて参りました。当初至仏山に登る予定でしたが悪天候の為登山は断念し鳩待ちから山の鼻、尾瀬ヶ原、三条の滝、下田代で山小屋に泊まり十日に富士見峠廻りで鳩待ちから下山するコースに変更しました。すると七月九日というのは尾瀬はシーズンオフ、第二長蔵小屋は私一人で貸し切り、当然十日も天気が悪いだらうと思つて居たのですが、なんと早朝の尾瀬ヶ原は快晴、雄大な景色も私一人で貸し切り、「オー何と静かなすばらしい朝なのだろう」正に涅槃寂靜の境地の如く何もかも忘れて心静かに御仏の懐に抱かれる雲の流れに身を委ね、心地よさにしばらく酔いしれていました。

## 「道心の中に衣食あり、衣食の中に道心なし」

伝教大師最澄様の遺言



ねえねえ お坊さん、お坊さんは何を求め、どこに向かつて歩もうとしているのですか？ それに、僕たちをどこに導こうとして居るのですか？



「イヤー僕」 久しぶりだね、そして今回は、直球でぶつけてきましたね。 そうだね、私達の歩む方向性、生きる指針がしっかりと示されないとみんな迷ってしまうよね。 僕は幸せに成りたい色々な思いを抱きながら生きて居るよね。お坊さんも同じように幸せに成りたいと様々な思いを抱きながら生きて居るのじゃよ。そしてもし出来たなら一人で幸せの境地を掴むのでは無くみんなと一緒に安心に満たされる幸せの境地を築く事が出来たらすばらしいだろうな、などと思つているのじゃよ。 たぶん世界中の人々も同じように幸せと言う境遇を得ようとして日々歩んでいると

## 「道心の中に衣食あり、衣食の中に道心なし」

思うよ。ただ残念な事だけれど幸せと思う価値観がその人の根拠を握る能力によって誤った価値観を抱いてしまう事なんじゃない。 私達が幸せに成る為には先ず正しい思いを抱く事から始めなければ成らないのじゃ。そこで最澄様はみんなが幸せに暮らせるように次のような遺言を残されたのじゃよ。 「道心」とは「仏心」いわゆる「慈愛心」なんじゃ。 「衣食」とは衣食住の生活環境と受け止めたり今求めて居る結果と受け止めても面白いよ。そこで、この遺言を己の歩む指針となるように訳してみるね。 「仏心が有れば良い結果は自然と巡り巡って来ますよ 己の都合の良い結果だけを求め人生を歩んでも真の仏心は得られませんよ。 仏心が無いと言う事は 良い結果も得られませんよ 幸せに成りたいなら、先ずは結果を求めず無心に己の仏心を育む事から始めなさい」と訳してみましたけれど、先ず少し己を忘れてお友達の幸を願つて見ようね。 私は農作業等を手段として共に仏心を育む、よりどころの具体策を考えて行くよ。 亮観拝



日本仏教に登場する仏様を毎号少しづつご紹介。今回は如来部の宝生如来を紹介します。

## ● 如来部 宝生如来

宝生仏、宝勝如来とも呼ばれ、サンスクリット語でラトナサバヴァと言ふ名前を持ちます。

あまり聞かない名前の仏様ですが、読んで字の如く、「宝から生まれた者」を意味し、また自らも宝を生み出し、人々に宝（福德）を授けてくださる仏様です。

宝生如来の特徴は、金色の肌を持ち、左手で自分の衣の裾をつかみ、右手の平を見せながら下ろす「与願印」という姿をしています。与願印とは人々の願いを受け止め、叶え成就させます。と言う意思を表現した姿です。

普段、宝生如来は金剛界と呼ばれる大日如来を中心とした、煩惱を打ち破るための智慧の世界に居られます。この世界では、大日如来の持つ教えを「金剛界五仏」と呼ばれる五人の仏様に分け与え、それぞれがその知識と教えを守り抜いています。

宝生如来はその内の一人として大日如来に仕え「平等性智」とい

う教えを担っておりませう。

「平等性智」とは、全ての人や物が世の中の差別等に関係無く、等しく皆平等である。という教えです。そのため、宝生如来は誰に対しても平等に接し、悩んでいる人それぞれに今、一番相応しいと思われる宝を授け導いてくださいます。

誰に対しても分け隔てる事無く平等に接する。当たり前の事ですが、中々難しい事です。

まずは身近な所からと言うことで、日本ではこれから東京オリパラが控えており、この東京近辺では、今まで以上に世界中の方々にお会いする機会が増すと思えます。そうした時、困っている人を見かけたなら何処の国の方であろうとも平等に。英語の出来ない私には少しばかり勇氣も必要ですが、それこそ宝生如来の右手のようにそっと手を差し伸べる。といった小さな一歩から出来るようになれたら良いですね。

亮澄拝



京都府 東寺 重文 宝生如来座像

## そばの種まき



九月一日、東光院名物「ほとけのおそば」の種まきが行われました。今回は千葉在来普及協議会様より、野呂町に古来より栽培されていた千葉在来の種を提供いただき播種致しました。なお、当日ご協力頂いた皆様には心より御礼申しあげます。

## 東光院施餓鬼会



東光院では去る八月十六日に盂蘭盆法要が、二十二日には施餓鬼法要が行われ、亡くなられた故人を偲んでご供養のひとときを過ごしました。

## 調布 灯籠流し

また、十九日には調布市野川のほとりで行われる野川灯籠流しに携

わらせていただき、市内仏教会をはじめキリスト教会、神道、立正佼成会など宗教の垣根を越えて、集まられた方みんなが故人の御霊を供養致しました。



## こども会 花火



地元子供会の方がお寺に遊びに来て下さいました。二十二日には境内にプロジェクトを設置し絵本の読み聞かせと花火大会、二十五日には地元野球クラブの方が座禅や夕食会

## 境内舗装

銀杏の根の生長によつて盛り上がり凹凸の出来た境内入り口付近の通路、かねてよりつまづく方の心配があったので、この度、護持会にて修復させて頂きました。此処にご報告申し上げます。



亮敬拝